

海外で **生き残る** 中小 ⑤

廠氏貿易

廠氏貿易は1973年創業。台湾出身で74年に日本国籍を取得した廠為雄氏が社長を務める。東京に本社があり、上海の中国企業約40社に自動車電装部品の生産を委託



NPO法人アジア起業家村推進機構
アジアテクノセンター相談室長

藤原 弘

し、そこで生産された部品を台湾の基隆自由貿易港区の自社工場で再点検・再加工し、中国や東南アジア、中東、欧州、豪州など70か国以上の中古市場へ販売している。中国が最大の市場と思いがちだが、そうではない。中国ではどうしても低価格を要求されること、さらに代金の回収という問題もあり、自動車部品を販売して利益をあげるの難しいという。そのため廠氏貿易の総売り上げに占める中国の割合は1%にも達しない。同社にとって自動車部品

品質管理に細かい配慮

の大口販売先はインドネシア、フィリピン、中東とのこと。廠氏貿易は特定の日企業や欧米企業に対して

部品を供給しているわけではないが、品質管理には相当細かい配慮をしている。台湾の工場の自動車部品の生産量は全生産

海の中国企業に生産を委託している。中国企業の中には、3-5%程度もあれば20%前後の不良品発生率を出す企業もある

社長の上海出張の機会は品質管理を徹底させるためにほぼ毎週1回となっている。上海に自社工場をもたず、既存の中国企業に自動車部品を委託生産することで投資コストを削減できたが、これら中国企業に品質管理を徹底させるうえで廠社長の時間と労力を大量に投入せざるをえないというのが実態のようだ。

して台湾か中国へ進出する企業は台湾と中国の両方で自社製品の商標登録を行っておくべきだという。台湾に進出しても中国で簡単にコピー製品を作られてしまうからだ。廠氏貿易は過去に中国のコピー部品メーカーによる模倣品被害に遭ったが、そのメーカーが中国の税関につかまったことから損害賠償金をとることができたそうだ。